

印西の庚申塔と女人講石塔



小倉の光堂（宝珠院観音堂）
文化10年（1813）の子安像塔



本埜村中根の福聚院
寛文9年（1669）の十九夜塔



船尾 東光院
延享3年銘（1746）の庚申塔



印西市域は江戸初期からの民間信仰の石塔の宝庫

庚申塔 : 寛文元年(1661)から 636基
十九夜塔 : 寛文5年(1665)から 376基
子安像塔 : 宝暦3年(1753)から 257基



戸神 宗像神社 庚申塔群
左から 明和3年(1770)・文政元年(1818)・享保12年(1727)



小林 光明寺 十九夜塔群



船穂 東光院 子安塔群

庚申塔とは

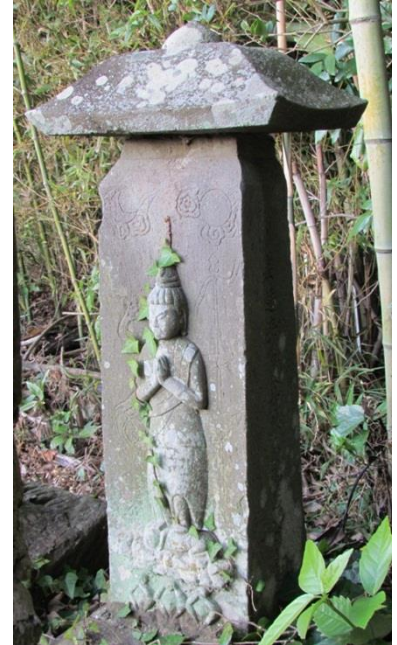
庚申塔は、最も普遍的で数も多く、近世からの村落共同体建立の石塔を代表する石造物である。

庚申待は、六十日に一回庚申の夜に、眠った人間の体から三尸が抜け出し天帝にその人の罪過を告げられないよう徹夜するという道教に由来した信仰で、室町時代ごろから庶民にも浸透し庚申講が行われるようになると、その供養の証しとして「庚申塔」を建立する風習が、江戸時代、各地に定着した。

江戸時代の庚申塔の初出は、元和九年（1623）の足立区正覚院の弥陀三尊来迎塔と三郷市常楽寺の山王廿一社文字塔、千葉県最古は松戸市幸谷観音境内の寛永二年（1625）の山王廿一社文字塔と報告されており、荒川（現江戸川）流域を起源とすると考えられ、いずれも板碑型の文字塔である。

17世紀中葉のころの庚申塔の主尊は阿弥陀・地蔵・観音など多様であるが、17世紀後葉から18世紀末までは青面金剛像が主流となり、日月・三猿・邪鬼・二鶏が付されることも多い。18世紀以降は「庚申塔」の文字塔と推移していく。

ムラに悪霊が入らないよう、街道の辻に建てられ、道しるべを兼ねる庚申塔もみられる。



造谷 路傍 庚申塚
宝永3年(1706)



物木村入口の庚申塔群

印西市近隣の初期庚申塔



佐倉市の先崎地藏尊 慶安3年(1650)
「奉造立庚申人数二五人 先崎村」銘



我孫子市手賀の高野山香取神社
万治二年(1659)板碑型庚申塔
「奉建立石塔一鉢二世安樂所」銘



八千代市吉橋の高本八幡社の
万治三年(1660)庚申塔
「為庚申待現当二世悉地成就処
講人数十八一結諸衆 敬白」銘

印西市の青面金剛像のない初期の庚申塔



竹袋観音堂
寛文元年（1661）



武西百庚申の隣
寛文10年（1670）



押付4水神社
延宝3年（1675）



大森長楽寺
天和3年（1683）

印西市の初期の青面金剛像のさまざまな姿



砂田庚申堂内
寛文11年(1671)



物木317 庚申塚
貞享3年(1686)



中田切38白山神社
貞享4年(1687)



上町観音堂
元禄13年(1700)
道標を兼ねる



吉高 十三仏板碑付近
元禄 13年(1700)

複雑化する庚申塔の像容



大森長楽寺
正徳5年(1715)



結縁寺青年館
享保17年(1732)

変化する三猿の姿



中田切白山神社
正徳2年(1712)



松崎火皇子神社
享保6年(1721)



戸神宗像神社
明和7年(1770)



戸神宗像神社
享保3年(1718)



下曽根市杵島神社
享保3年(1718)



笠神古墳群
寛延2年(1749)



物木317庚申塚
宝暦4年(1754)



物木317庚申塚
享保3年(1718)



戸神宗像神社
享保12年(1727)



泉集会所
宝暦8年(1758)

江戸中期の 印西市中心に 特有な意匠例

所謂
「生首持ち型青面金剛」
(大島洋一氏)

百庚申の造立



砂田の百庚申
天保6年(1832)～
明治元年(1866)



武西の百庚申
文久3年(1863)





笠神社の百庚申
慶應元年~3年



十九夜塔とは

旧暦19日の夜、女性が寺や当番の家に集まって、講を開き、如意輪観音の前で経文、真言や和讃を唱える行事を「十九夜講」と呼び、関東北東部で盛んに行われていました。

十九夜講が、祈願の信仰対象あるいは成就のあかしとして建立する石塔が「十九夜塔」で、主に、右手を右ほほに当て首をかしげ、右ひざを立てて座る姿の如意輪観音像が主尊として彫刻されています。



文政10年(1827)鎌苅東祥寺

「十九夜念仏供養 二世安楽」などの銘文と、如意輪観音像を刻んだ典型的な十九夜塔が盛んに建てられるようになるのは、千葉県内では、寛文5年(1665)印西市(小倉青年館)からで、印西市内では寛文10年までに12基が建てられています。

なお、千葉県内のその頃の像容は、二臂より六臂の如意輪観音像が多く、またまれに聖観音像や地蔵像の十九夜塔も見られます。



寛文5年(1665)小倉青年館

千葉県内の十九夜塔の初出をめぐって



千葉県で一番古い十九夜塔は、香取市石納の結佐大明神境内の石塔
中段に「キリーク」の梵字
台石に「承応元年(1652)壬辰年／十九夜侍之供養／十二月十九日」の銘



山武郡芝山町加茂普賢院
明暦元年8月(1655)造立の六地藏
立像の石幢
「奉新造立石地藏十九夜待」の銘



山武市本須賀の大正寺
万治2年(1659)宝篋印塔
「上総国山辺庄武射郡南郷本須賀村
奉唱満十九夜念佛二世安隠之所
萬治二年己亥三月十九日
結衆七十五人敬白」の銘

十九夜塔の発祥地-筑波山ろくの石塔



つくば市平沢の八幡神社



つくば市平沢官衙跡(復元)



石造六角地蔵宝幢
(16世紀末)



「寛永九年(1632)三月十九日 願主敬白」と刻した石塔

雲母片岩に稚拙な彫りで
日月と蓮華座に座す仏像を
刻む

「十九日」の日付から、観
音坐像を彫った十九夜供養
塔で筑波町最古とされている



茨城県利根町の十九夜塔



利根川
栄橋利根町側から
印西市方面



寛永15年(1638)
利根町大平神社
「念佛之」「九月十九日」銘



寛文10年(1670)
利根町押戸毘沙門堂



元禄16年(1703)
利根町大平神社

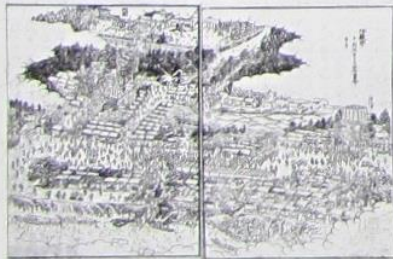
如意輪観音を主尊とした十九夜塔の初出



茨城県利根町布川の徳満寺
最古の如意輪観音像の十九夜塔 万治元年(1658)銘
4手の如意輪観音を線彫りした板碑型の塔
左は時(斎)念仏塔 元禄14年(1701)



木像地藏菩薩立像(子育て地藏)



江戸時代地藏市の様子(利根川図志・赤松宗旦著)



十九夜塔の分布

十九夜塔の分布

千葉県北部、茨城、栃木、埼玉、福島県の一部に多い
特に利根川流域を中心に、「古鬼怒湾」あるいは「香取の海」といわれる霞ヶ浦から印旛沼・手賀沼を含む湖沼から遡上する河川沿岸の村々ひろがる

初期の十九夜塔造立数

利根川とその支流の小貝川・手賀川・長門川・利根常陸川の流入地点が早い段階から十九夜塔普及の地域となっている

十九夜塔の関東各県別の数

栃木県	2702基	
茨城県	1672基	
福島県	1449基	
千葉県	1175基	*
群馬県	142基	
埼玉県	108基	

中上敬一氏の2005年報告

* 石田年子氏の2011年の集計で
千葉県 1997基

初期の十九夜塔造立数

寛文10年(1670)まで

茨城県側

利根町	10基
伊奈町	7基
取手市	6基
藤代町	3基
鹿嶋市	3基

千葉県側

印西市	12基
佐原市	6基
印旛村	6基
我孫子	5基



印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -1 初期



寛文5年(1665)
小倉青年館



寛文6年(1666)
山田円蔵寺



寛文8年(1668)
大森古新田青年館

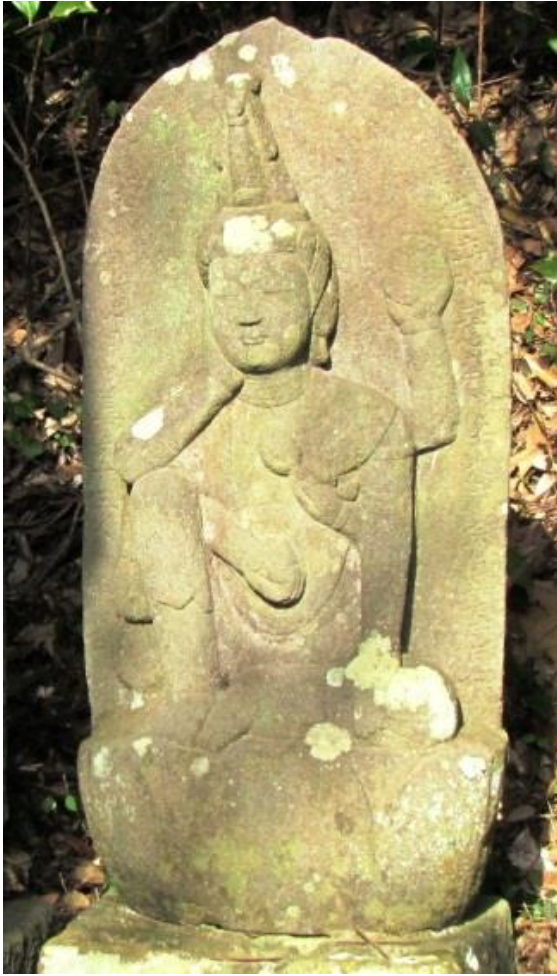


寛文8年(1668)
和泉青年館



寛文8年(1668)
別所地藏寺

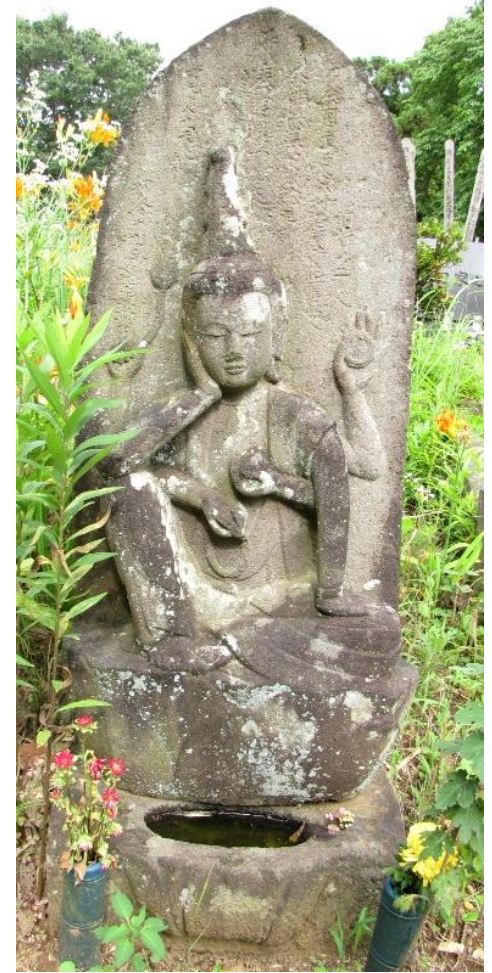
印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -2 初期



寛文8年(1668)
松虫寺



寛文9年(1669)
中根福聚院



寛文9年(1669)
小林 光明寺

印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -3 初期



寛文11年(1671)
戸神青年館



寛文12年(1672)
印旛村平賀観音堂



寛文13年(1673)
竹袋観音堂

印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -4 江戸中期



延享元年(1744)
宗甫観音堂



天明2年(1782) 小林 光明寺



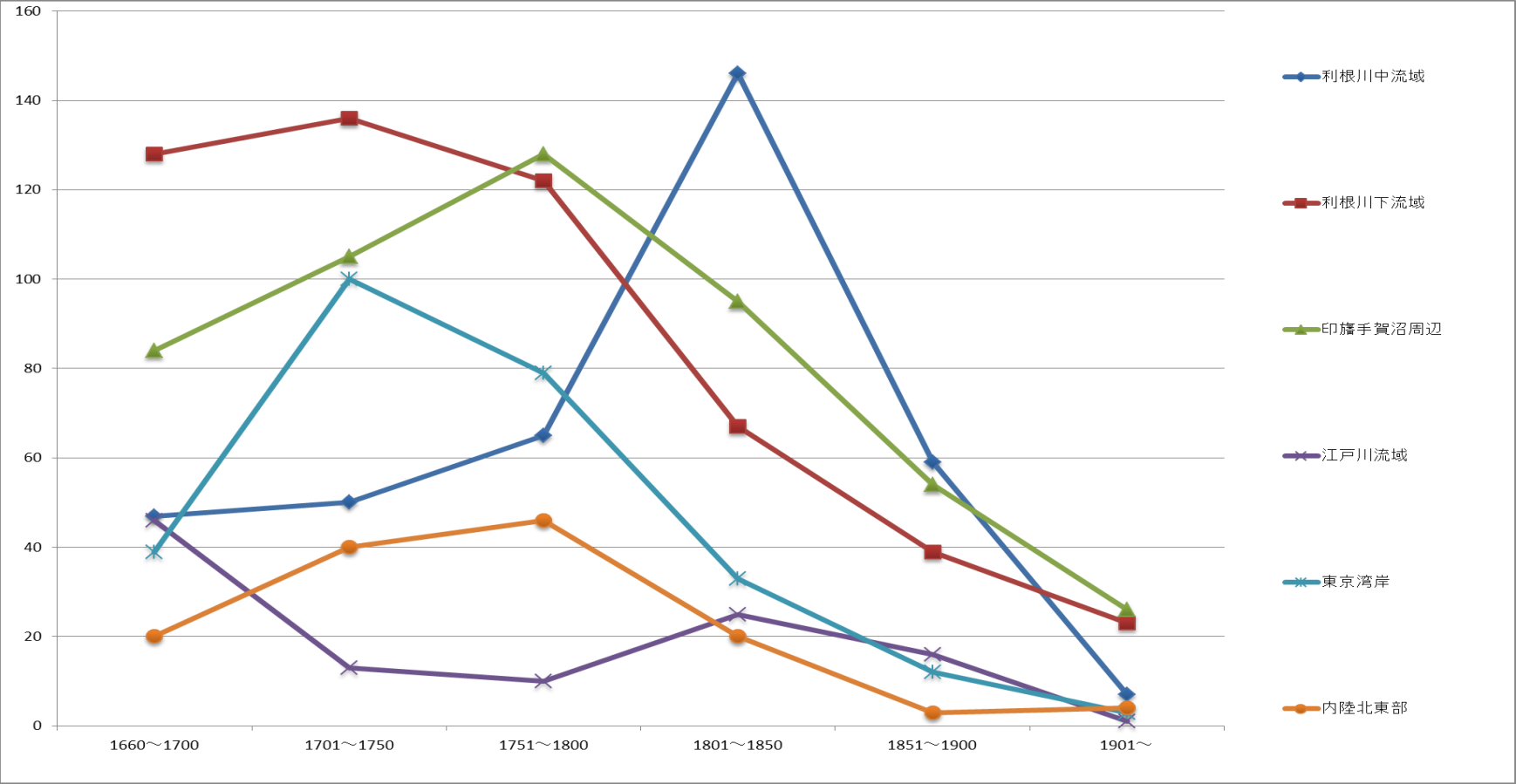
寛政元年(1789)中央公民館前
「江戸道」道標



文政10年(1827)鎌苅 東祥寺

西暦	利根川中流域	利根川下流域	印旛手賀沼周辺	江戸川流域	東京湾岸	内陸北東部	計
1660～1700	47	128	84	46	39	20	364
1701～1750	50	136	105	13	100	40	444
1751～1800	65	122	128	10	79	46	450
1801～1850	146	67	95	25	33	20	386
1851～1900	59	39	54	16	12	3	183
1901～	7	23	26	1	3	4	64
不明	9	41	24	5	18	9	106
合計	383	556	516	116	284	142	1997

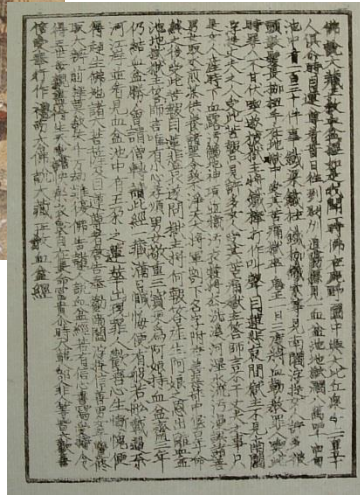
エリア	市町村名						
利根川中流域	野田	柏	我孫子				
利根川下流域	印西	栄町	成田	佐原	東庄	小見川	
印旛手賀沼周辺	沼南	鎌ヶ谷	白井	八千代	佐倉	酒々井	印旛 本埜
江戸川流域	市川	松戸	流山				
東京湾岸	船橋	習志野	千葉				
内陸北東部	四街道	富里	大栄	山田	八日市場		



十九夜塔の主尊は なぜ如意輪観音なのか



「熊野観心十界図」六道珍皇寺所蔵



血盆經(富山県立山博物館所蔵)



立山曼荼羅 吉祥坊本(血の池地獄)〔個人所蔵〕

「十九夜念仏和讃」＝毎月十九日に集まって、十九夜念仏を唱えれば、血の池地獄に堕ちた女人を如意輪観音が救済してくださる

「血の池地獄」＝「血盆経」という室町時代に中国で成立・伝来した差別的な偽經に出てくる地獄

月経とお産で流す血の穢れから女性が逃れられない恐ろしい死後の世界

「如意輪観音＝血の池地獄の救済者」

何故血盆経信仰と結びついたのかは、中国における問題であり、その理由は定かではない。

京都六角堂(『聖徳太子＝如意輪観音』化身説)⇒「血の池観音図」⇒16世紀後半の岡崎満性寺に伝来

熊野比丘尼の「観心十界図」(血の池・不産女地獄)絵解き＝血盆経信仰を勧め、血盆経を頒布した

熊野は女性の不浄”を厭わぬ聖地

⇒熊野比丘尼により女性達がより積極的に血盆経信仰を受け入れる道を拓く

⇒宗派内を越え、如意輪観音が絵画を通して広く各地に定着

血盆経護符の携帯＝不浄を他に及ぼさず、死後の成仏を約束⇒安産のお守り⇒関東では正泉寺が喧伝

高達奈緒美「血盆経信仰の諸相」から

子安像塔とは

子安観音・子安明神など、乳幼児を抱いた神仏像が刻まれている石塔や石祠

子安塔とは

子授け・安産・子供の健やかな成育を祈願するために子安講などのムラの女性たちが造立した石塔や石祠

子安像塔のほか、「子安観音」「子安明神」などの文字碑や石塔を含む

子安講とは

江戸時代、二世安樂を念誦する念仏講から女人成仏を如意輪観音に祈願する十九夜講へ

さらに、江戸後期からムラのお嫁さんが安産子育てのご利益と親睦を目的に集う子安講へ



安永5年(1776)
瀧水寺(旧本埜村)

印西市の子安塔 -1（北総に特徴的な3タイプ）



元文3年(1738)
宮内 鳥見神社
「子安大明神」石祠



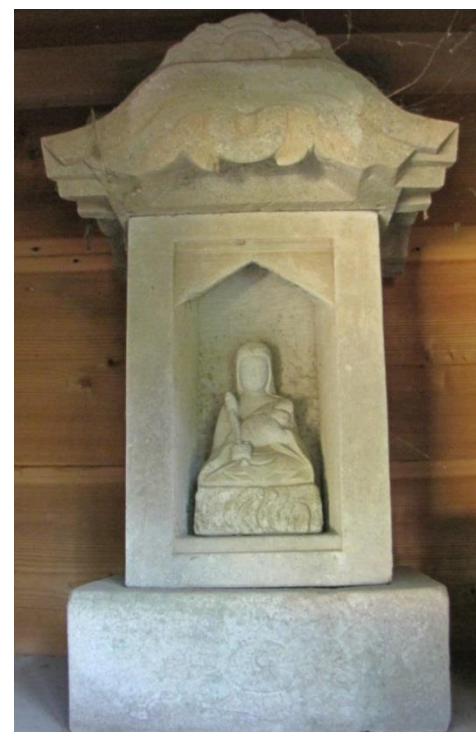
宝暦5年(1755)
行徳 稲荷神社

思惟相のタイプ



安永5年(1776)
滝 瀧水寺

二児のいるタイプ



文化3年(1806)
宮内 鳥見神社

石祠内のタイプ

印西市の子安塔-2 思惟相のタイプ



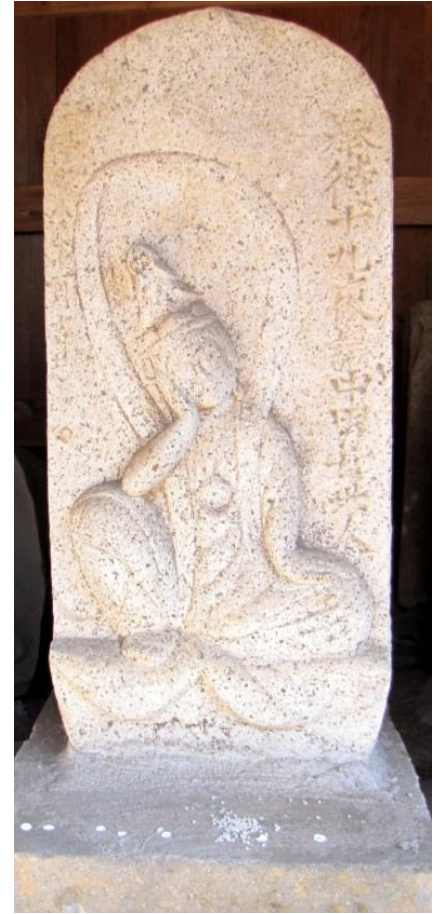
明和元年(1764)
平賀 不動堂



明和元年(1764)
平賀 観音堂



明和5年(1768)
鎌苅東祥寺



寛政8年(1796)
瀧 瀧水寺

印西市の子安塔-3 (2児のいる子安像)



安永5年(1776)
本埜村瀧水寺



安永3年(1774)
栄町 南集会所

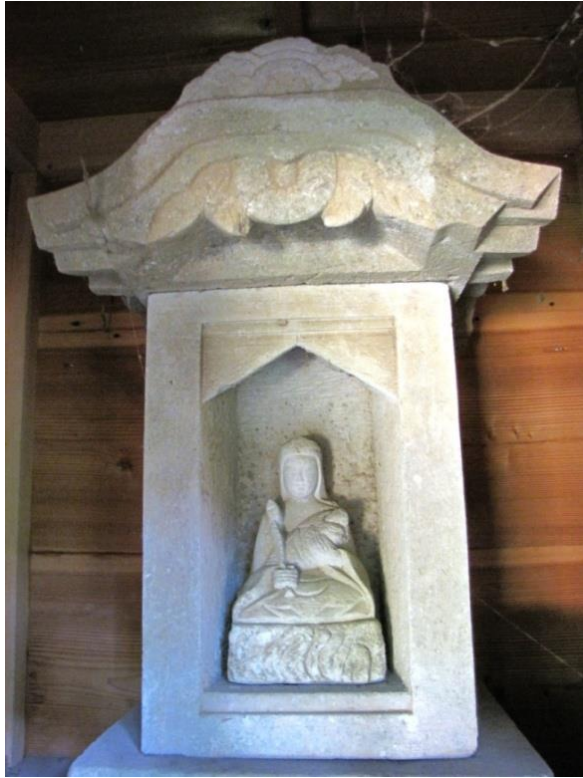


安永8年(1779)
栄町押付 善勝庵



安永8年(1779)
下曾根市杵島神社

印西市の子安塔-4 （石祠内の子安像）



文化3年(1806)
印西市宮内の
鳥見神社



文化13年(1816)
千葉市 加曽利町



文政7年(1824)
船橋市 高根町 神明社

印西市の子安塔-5 (印西市内に特有のタイプ)



安永5年(1776)
岩戸西福寺



天明4年(1784)
岩戸 高岩寺
「十五夜」



天明7年(1787)
松崎 火皇子神社



印西市
岩戸 西福寺
安永5年 (1776)



我孫子市
江蔵地青年館
天明元年 (1781)



印西市
松崎火皇子神社
天明7年 (1787)



佐倉市
鍋木周徳院
寛政6年 (1794)

印西市の子安塔-5（印西市内に特有のタイプ）



寛政5(1793) 竹袋観音堂



寛政8(1796) 瀧水寺



享和1(1801) 荒野安楽寺跡

印西市の子安塔-7（印西市内に特有のタイプ）



享和元年(1801) 印旛村岩戸



享和2年(1802) 印西町鹿黒



文化〇年(1804～) 和泉屋氷川神社

印西市の子安塔-8（印西市内に特有のタイプ）



文化4年(1807)
小林光明寺



文化7年(1810)
和泉会館



文化8年(1811)
造谷真珠院

印西市の子安塔-9



文政2年(1819)
岩戸高岩寺



文政13年(1830)
行徳稲荷神社



嘉永4年(1851)
発作巖島神社



嘉永7年(1854)
戸神青年館

印西市の子安塔-10



安政6年(1859)
泉集会所



明治19年(1886)
岩戸不動尊



明治8年(1875)
大廻墓地



明治11年(1878)
山田 集会所

大正7年(1918)
小林光明寺

印西市の子安塔-11 幕末から現代へ 定番型の子安像の普及



安政4年(1857)
印西市別所地蔵寺



明治19年(1886)
印西市戸神青年館

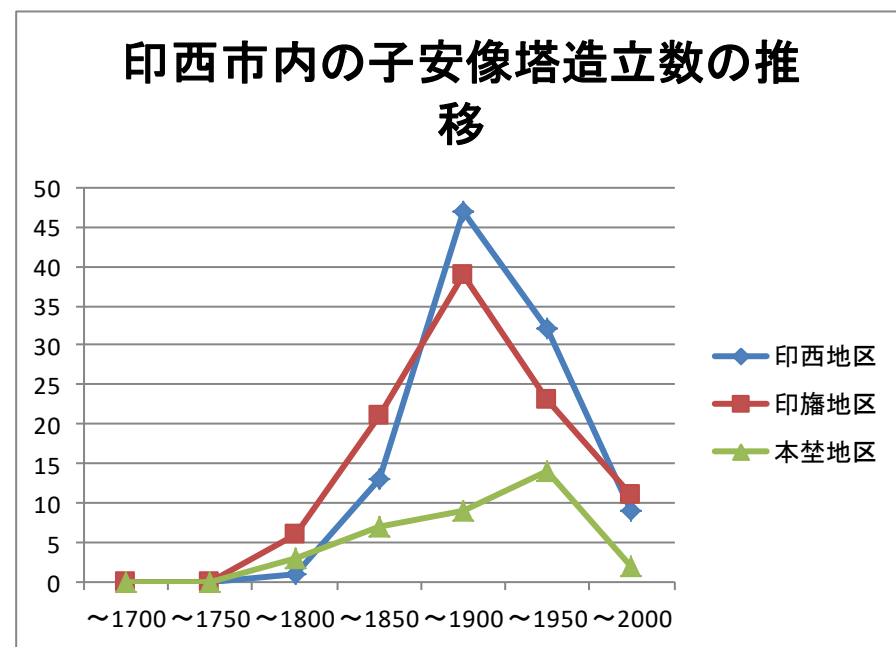
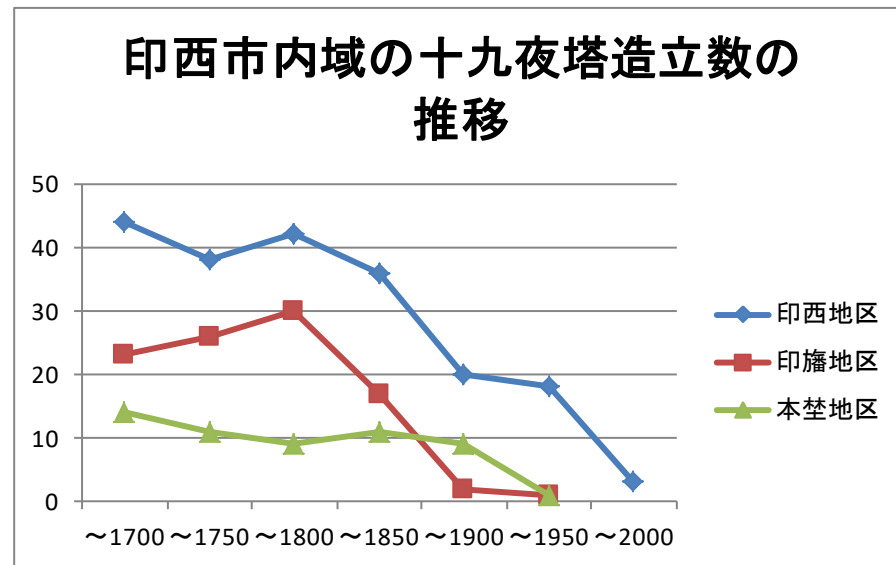
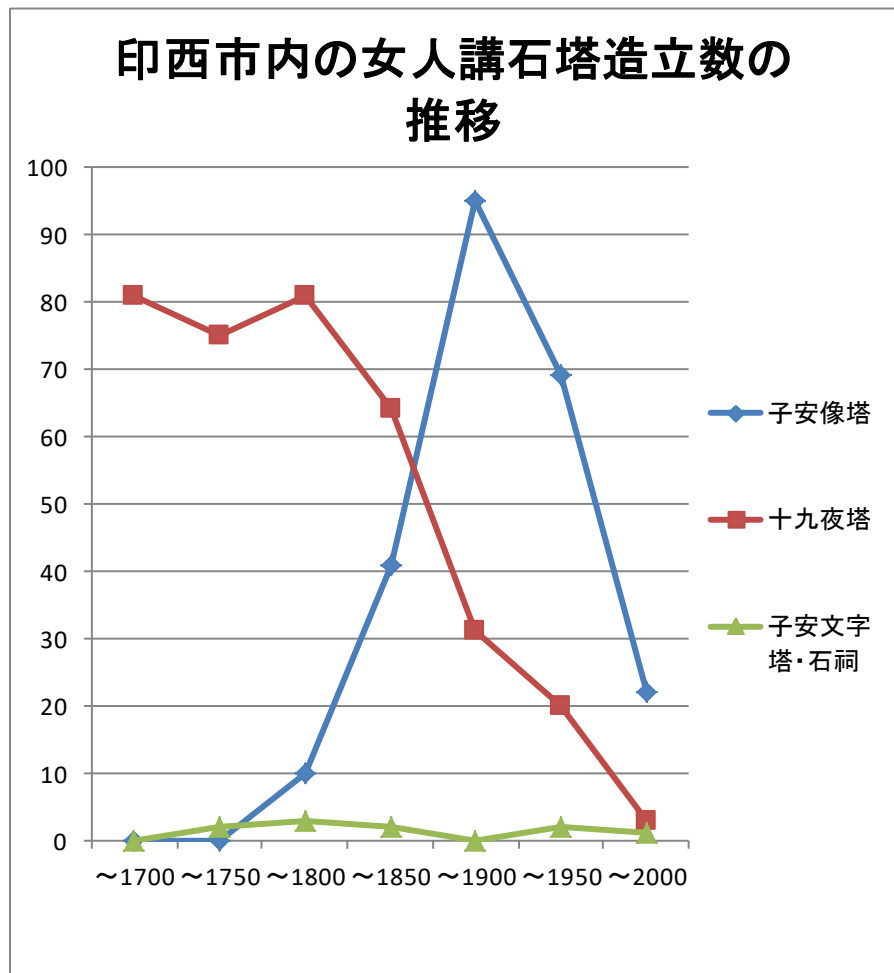


大正8年(1919)
白井市仏法寺



昭和56年(1981)
八千代市村上辺田前公会堂

図1 印西市内の十九夜塔・子安像塔などの造立数の推移



千葉県の出現期の子安像塔



袖ヶ浦市
百目木子安神社
元禄4年（1691）



酒々井町
柏木 新光寺墓地
元文5年（1740）



酒々井町
下岩橋 大仏頂寺
延享元年（1744）



酒々井町
伊篠 白幡神社
明和7年（1770）



香取市
虫幡日向山薬師堂
元文5年（1741）



栄町
西新田霊園
元文5年（1741）

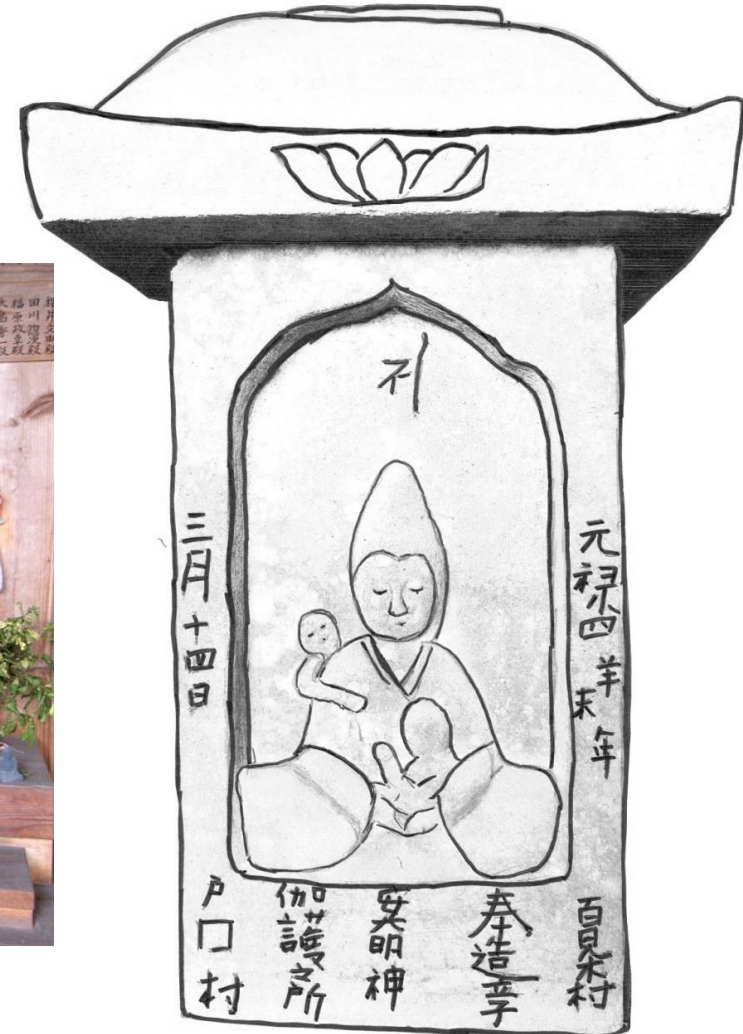


酒々井町
尾上住吉神社
宝暦元年（1751）



酒々井町
酒々井朝日神社
宝暦4年（1754）

北総の子安塔成立のルーツ 袖ヶ浦市百目木の子安様

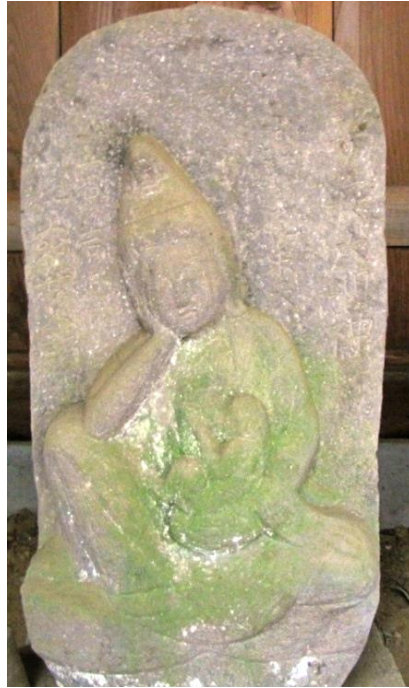


北総の子安塔の初発 酒々井町の子安様



享保 18年(1733)

宝暦元年(1751)
尾上 住吉神社



元文5年(1740)
柏木新光寺跡墓地

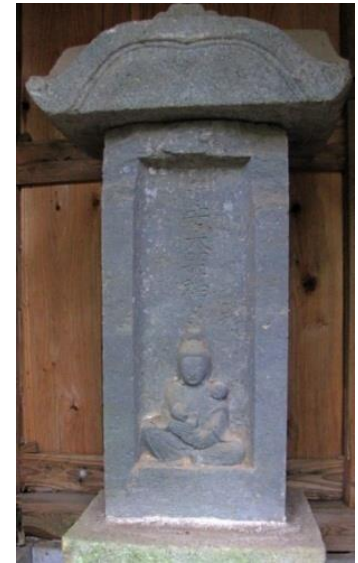
北総の子安塔 石祠に浮彫された子安像塔



延享元年(1744)
酒々井町下岩橋 大仏頂寺



明和 7年 (1770)
酒々井町伊篠 白幡神社



天明3年(1783)
佐倉市大佐倉 麻賀多神社

北総の子安塔 二児のいる思惟相の子安像



宝暦4年(1754)
酒々井町酒々井朝日神社



安永 5 年(1776)
酒々井町酒々井新堀



宝暦12年(1762)
成田市松崎 富宮神社



天明3年(1783)
成田市飯仲住吉神社

北総の子安塔を訪ねて

下総町（現成田市）と成田市北須賀の子安さま



明和元年(1764) 下総町 高・台十字路



左は 天明8年(1788)の如意輪観音十九夜塔 北須賀白旗神社 天明2年(1782)

図3 下総地方の子安像塔造立数の推移

